

国際ロータリー第2560地区  
ガバナーテーマ

「基本を学び、地域と共に」

高田ロータリー今年の  
スローガン

「ロータリーを識り、  
奉仕を实践し友情を深めよう」



人類に  
奉仕する  
ロータリー

2016～2017年度

国際ロータリー会長 ジョンF.ジャーム  
2560地区ガバナー 田中 政春  
高田ロータリー会長 本山 秀樹  
幹事 中田 正

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号  
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534  
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp  
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員  
加藤 卓也 伴 長門 齊藤 光雄 佐藤 芳徳

## 第20回例会 ■ 11月25日(金)

No.20

### 会長代理発辞 ● 齋藤 尚明



皆さんこんにちわ。本日は本山会長が所用で直前会長の水上さんも株主総会ということで直前会長の私齋藤が代理をつとめさせていただきます。

先週は例会後バスで上越妙高駅東口に移動して、創立60周年で上越市に寄贈した『山桜』の記念植樹を行いました。前後の日が雨風の荒天でしたがこの日だけはまさに秋晴れに恵まれ最高の植樹日和でした。

高田クラブ会員27名はじめ、野口副市長、丸山大和2丁目町内会長も出席されて小林幹央社会奉仕委員長の司会でセレモニーも滞りなく執り行われました。

上越妙高駅東口という上越市の顔ともいえる良い場所に植えられた樹齢500年という高さ10mのヤマザクラが乗降する人々の心のランドマークになってもらえたらうれしいことです。

尚、当日出席下さった会員の皆様には、プロカメラマン山田守さんが撮影した写真が配られていますので後程御覧下さい。

さて20日には会員の石倉さんの創立100周年の会があり多くのクラブ員が招かれ出席しました。100年続くと言えば本当に素晴らしいことで中々できることではありません。高田クラブ会員一同心からお慶び申し上げます。

その折戦前の新聞のコピーが配られましたが、そこに高田ロータリークラブのチャーターメンバーが4人も出ていたのです。それもすべて会長

をされた方です。初代の中川卓治様。会員の岩崎さんの信用金庫理事長だった方です。2、3、4代の小林茂様は会員の小林元さんのお祖父様です。そして8代の渡辺善造様、9代の八木太平洋と、さすがに先輩方は戦中から活躍されていたのだと感心した次第です。

最後にもうひとつ御存知の方もおられると思いますが上越市立博物館は12月から改修に入ります。新たに歴史を中心とした展示内容になるということです。そして小林古径記念美術館も現在の古径邸宅敷地内に新しく展示棟を建設し美術品の展示をするということで大きな変化です。

また上越市ではこれまで多様な偉人を輩出してきました。上杉謙信は別格として偉人を近、現代の6人にしぼって重点的にアピールしていこうということになりました。

日本画の小林古径、『夏は来ぬ』の作曲家小山作之助、会員の棚橋さんの岩の原葡萄園の祖にして日本ワイン葡萄の父 川上善兵衛、童話作家小川未明、そして会員の堀井さんが代表になって顕彰しておられる郵便の父 前島密、この後堀井さんには卓話して頂きますのでよろしくお願ひします。

そしてもう一人、酒博士と呼ばれ日本バイオ学の父ともいわれる坂口謹一郎です。会員の小林元さんと棚橋博史さんと私は上越市の坂口博士顕彰委員会のメンバーです。来年は坂口博士の生誕120年に当り行事が計画されています。皆様には何かとお世話になりますがどうかよろしくお願ひ致します。長くなりました。終わります。

## 出席報告

出席率 100%

## メイクアップ

水上喜芳君 (11/26 米山奨学生学友会総会)

## 委員会報告

出席・ニコニコBOX

本山秀樹君——電話対応コンクール全国大会で新潟県代表の上越の女性が60人エントリーした中で、6位入賞できました。同行し応援した甲斐がありました。今週は、全日本電気工事工業組合連合会主催の電気工事技術競技会が両国国技館で開催され、新潟県理事として出席します。2週連続の例会欠席で申し訳

ありません。

石倉 悟君——去る11月20日の弊社創業100周年記念式典に、多くのロータリアンにご参加頂き誠にありがとうございました。おかげ様で無事終了する事ができました。

## 幹事報告

配布物：週報No.19

回覧物：新会員カード(内山 徹氏)・植樹式記念写真

報告：12月2日の例会について

年次総会及びクラブ協議会(上期活動報告)

吉原恵一郎君が出席します。12:00～12月のロータリーレート106円/ドル

## 会員卓話

## 若き日の前島密—その足跡を訪ねて

郷土の偉人“前島密翁”を顕彰する会 会長 堀井 靖功 君



前島密(幼名:上野房五郎)は1835年、上越市下稲塚に生まれました。明治政府の要請を受け明治2年に民部省改正掛になりましたが、ここで日本の近代化のために数々の功績を残しました。交通・通信の責任者として①鉄道計画の作成②郵便制度の立案・実施③現・日本通運の元となる陸運元会社の設立④海運事業の育成⑤産業振興のための博覧会の実施などなど、大きな功績をそれも超スピードで実施しています。

前島密は、なぜこのようなことができたのでしょうか、その不思議・秘密を『若き日の前島の足跡』からたどってみましょう。

12歳でひとり江戸へでた上野房五郎は、ペリー来航(黒船)を接見役の従者として浦賀で見ました。18歳の時です。日本の将来を考え、日本を守るために一生をささげようと志を立てました。各地を歩き回り実情を(港・砲台)を見て回ります。

20歳で安積良斎の私塾「見山楼」に入門し、その後箱館、長崎で英語・数学・航海術等を学びます。31歳で前島家を継ぎ幕臣となりますが、実力が認められ幕府開成所の反訳方、数学教授を務めます。大政奉還後は駿河藩公用人・遠州中奉

行として旧幕臣の生活の安定に努めています。33歳で前島来輔から密と改名しました。

若き日の前島密は、このようにしてスケールの大きな展望力・先見力と抜群の行動力で実務能力も身に着け現在につながる近代化を成し遂げました。

顕彰する会は、前島密の全国に残る足跡を訪ね歩いています。次々と新しい「密」が発見でき、郷土の偉人“前島密”はまだまだ大きくなっていきます。楽しみです。

